

市民
ごみ大学
セミナー



10月22日(日)
13:30 ~ 16:30

2017年
10月開催

古布リサイクルの最前線 その常識は非常識?!



古着などの「古布（ふるぬの・こふ・ふるぎれ）」は、古紙と並んでリサイクルの長い歴史があり、地道にリサイクルされているとばかり思っていたのですが、最近は商社や外国資本など外部参入もあり、状況が大きく変わってきているようです。また「ぬいぐるみ、靴、カバン、ベルト」などが収集品目になった自治体もあり、「資源」としてのさらなる活用が徐々に進んできています。



一方、都内の公園で開催されているフリーマーケットは、ものの循環に一役買っているだけではなく、楽しい生活スタイルとして定着し、古着の抵抗感もほとんどなくなりました。

そこで、今回は古布をテーマに、フリーマーケットを推進する市民団体、資源を拡大した自治体、古布リサイクルのパイオニア企業からお話を伺い、古布リサイクルの「いま」を学習します。

衣類リサイクルの現状と 地域づくりとしての リサイクルへ

ナカノ(株)リサイクル部 事業企画室
内田 長さん

市場原理に偏った衣類リサイクルのあり方が行き詰まりを見せています。元来公共性を帯びているリサイクルが持続可能なものであるためには、市場と公共がバランスを保ったシステムでなければなりません。

衣類リサイクルに起った現状とあるべき姿である「エコソフィー」の考え方についてお話しします。

これもあれも… 可燃ごみではありません 西東京市のリサイクル事業

西東京市 ごみ減量推進課
岩崎 都泰 さん

西東京市では、平成19年から金属類、廃食用油を資源化しています。平成25年から小型家電の資源化、平成26年からは、かばん、ぬいぐるみ、羽毛布団等の資源化を開始しました。

現在新たに取り組んでいる事業と一緒に紹介します。

フリーマーケットの 現場から見えてくる 古着事情

リサイクル推進友の会
石倉 俊男 さん

1993年設立。リサイクルを推進する立場からフリーマーケットを開催しています。

東京都、埼玉県の公園、ショッピングモールなどで開催していますが、さらに千葉県、茨城県などに拡大中です。最近の古着をめぐるフリマ事情をお話しします。

参加費：一般 1000円 会員/学生 500円 *申込不要 直接会場へお越しください

ごみ・環境ビジョン21



184-0013
東京都小金井市前原町 4-11-15 井上
TEL: 080-9291-3623
FAX: 042-383-1668
e-mail: gomikan21@docomo.ne.jp
HP: http://gomikan21.com/

